

主な研究活動

運営委員会

- 第4回 7月15日 2008年度奨励研究者成果論文の査読、海外提携機関との覚書・招聘・派遣等計画、各研究班の公開研究会計画、2009年度データベース予算執行計画、研究協力者の謝金基準改定、図書館リポジトリへの対応
- 第5回 9月30日 研究協力者の登録、2010年度予算案、ニューズレターNo.23・年報6号編集方針、関東震災共同研究・調査資料の写真撮影、および旧日本租界共同研究・研究成果論文の翻訳について
- 第6回 10月14日 海外提携機関からの訪問研究員の受入れ、海外提携機関への研究員の派遣
- 第7回 11月4日 研究協力者の登録、2010年度予算（案）、センター要覧2010・2011年度版の編集について

研究員会議

- 第2回 7月31日 2009年度センター事業報告、研究員の受入れ、各研究班の研究会開催計画・活動状況、図書館リポジトリ登録同意書、2010年度予算について
- 第3回 10月16日 COEホームページの英文サイト構築、朝日新聞文化財団「文化財保護助成」の決定、海外提携機関からの研究員の招聘・派遣、グローバルCOEの審査結果について

研究会

研究班

- 10月2日、30日、11月13日、27日 非文字資料研究ネットワーク形成共同研究・研究会
- 7月22日、9月30日、10月21日、28日、11月11日 マルチ言語版『絵巻物による日本常民生活絵引』編纂共同研究・研究会
- 7月10日、18日、29日、8月4日、20日、25日、9月1日、7日、18日、25日、10月13日、19日、28日、31日、11月10日、15日、18日、25日 関東大震災の都市復興過程とそのデータベース化共同研究・研究会

現地調査

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
持続と変容の実態の研究	9月7日～9月11日	対馬市厳原町	橘川俊忠、津田良樹、本田佳奈
只見町インターネットエコミュージアム基本データおよび行政資料の収集	11月7日～11月9日	只見町役場	フレデリック・ルシーニュ、小松大介

表紙紹介

菅原白洞作『東都大震災過眼録』全3巻の抄録。作者菅原白洞、本名竹尾（1896～1951）は香川県綾歌郡山田町に生まれ、絵画修業のため20歳で上京、日本画の山内多門に師事した。東京柏木で関東大震災に罹災（1923年）、震災直後の情景を眼にして、この絵巻をものした。

絵巻3巻は、12メートルから15メートルに及ぶ大作である。第1巻は大地震発生で人々が避難する様子が描かれる。震災当時唱えられた天譴論を、絵巻では仏神の怒りとして描き起こしている。第2巻は、多くの建物も地震で崩れ、焼かれ、街は水と食を求めて右往左往する人々の様子が描かれる。9月3日朝、漸く火災が収まる。第3巻は、漸く平穏が訪れた街々の様子が描かれ、悲劇の被服廠での49日の法要で巻を閉じる。

編集後記

今号も、公開研究会関係の記事が中心になった。公開研究会は、研究プロジェクトのそれまでの研究成果を発表し、研究の一層の深化のために実施するものであり、それが半年で三回実施されたということは、本センターの活動の活発さをあらわしていると自負してもよいことではある。しかし、内容的には、COE時代の成果の延長線上にあるという面も否定できない。今後、新たに発足したセンターとしての独自の展開をどう図っていくのかが問われる時期に来ているように思われる。次号は、半年後になるが、第1期3年計画の成果を伝えると同時に、第2期3年計画のプロジェクトの方向性なりとも示すことができる内容としたいと考えている。